

Q33 衣服の着脱、管理に関する配慮

<このような状態は自閉症の特性からきています。>

小学3年生のA君は、衣服の着脱は自分でできるのですが、毎日同じ洋服を着たがります。学校での体育着への着替えを嫌がり、無理やり着替えをさせようとする、泣いてパニック状態に陥ってしまうこともあります。

自閉症の子どもは、決まったパターンで行動することを好む傾向があり、触覚が過敏な場合は、特定の衣服を着たがり、着替えができないことがあります。生理的な問題もありますので、無理をせず本人が納得できるよう、不安感を取り除いていくことも大切です。

<このような場合の支援 1>

小学1年生の知的障害を伴う自閉症の男児。学校生活の中では、決まって上靴や靴下を脱ぎ捨てて、裸足になってしまいます。教師は、安全も考えて上靴を履くように指導するのですが、なかなかうまくいきません。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 「脱がない」ことを指導するのではなく、「履く」ことを意識する言葉かけをする。
- ② 靴や靴下を脱いでいい場所と、必ず履く場所を明確にして本人が意識する。
- ③ 靴の大きさや履きやすさはどうか等も観察して、靴が本人に合っているかどうかを確認する。
- ④ 感覚過敏の問題も考えられるので、靴下の材質等について保護者と連携をとる。

<このような場合の支援 2>

小学3年生の高機能自閉症の男児。衣服の着脱は一人でできるのですが、寒暖に関係なく衣服の調節が難しいようです。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑤ 本人の中での決め事（こだわり）があり、寒暖よりもその決め事を優先している場合があることを理解する。
- ⑥ 少しの暑さでも不快であるなら、着替えを用意しておき、新しい衣服に着替えるよう促す。
- ⑦ 場面に合った衣服の着脱ができるように、「涼しそうだね。似合うね」など心地よさが実感できるよう言葉かけをする。
- ⑧ 衣服への関心を高め、自分で選ぶ経験もさせながら好みの幅を広げる。
- ⑨ 季節の変わり目などは、家庭と協力して衣服を持参させ指導する。
- ⑩ 本人のストレスにならないよう、あせらず少しずつ配慮する。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子